



5月の園だより



令和6年5月1日
目黒区立中央町保育園園長

新緑がまぶしく肌に当たる風が心地よい季節になりました。入園、進級して1か月が過ぎ、子どもたちは新しい環境に慣れ、保育士や友達と一緒に部屋や園庭で好きな遊びや場所を見つけて遊んでいます。

事務所前のメダカの水槽が4月から大きくなり、メダカの数も増えました。3月末で閉園した鷹番保育園から譲り受けた水槽で、メダカも数匹お引越ししてきました。子どもたちが座った目線でメダカを見ることができるので、皆毎日興味津々で見えています。送迎の際にも子どもたちが水槽の前からなかなか離れず、保護者の方も一緒にメダカ観察をお付き合いされている様子も見受けられました。「メダカたくさんいるね」「ちいさいメダカもいるよ」と親子での会話も弾んでいたようです。子どもの好奇心は旺盛で、どんなことにも発見や驚き、感動があります。それを身近な大人に共感してもらうことで、子どもは満足し好奇心はさらに高まっていきます。大人になると忘れてしまいがちな小さな発見や感動を、子どもたちと一緒に味わっていきたくて改めて感じています。

4月末に晴天の下、4、5歳児クラスで大型バスに乗り砧公園へ遠足に行ってきました。広大な芝生広場には大きな木があり、木の根元にはダンゴ虫がたくさんいて子どもたちは目を輝かせてダンゴ虫を捕まえたり、芝生の斜面を走ったり、しっぽ取りなど追いかけて楽しんだりたくさん遊びました。子どもたちお待かねのお弁当タイムでは「みてみて、おいしそうでしょ」とお弁当を見せてくれたり「びっくりしたよ」と満足顔でした。翌日、子どもたちに遠足で楽しかったことを聞いてみると「お弁当食べたのが楽しかった」という声が圧倒的でした。4、5歳児クラス前に子どもたちが描いた遠足の絵が掲示してありますので、ぜひご覧ください。

《クラス懇談会の予定》

- 5月 0歳児クラス
- 2歳児クラス
- 1歳児クラス
- 6月 3歳児クラス
- 4歳児クラス
- 5歳児クラス

《5月の予定》

- 春の健康診断（全園児）
- ポニー教室（5歳児）
- 中旬 身体測定・避難訓練



たけのこ組
(1歳児クラス)



こいのぼりを作りました

もみじ組
(3歳児クラス)



どんぐり組
(2歳児クラス)



いちよう組
(4歳児クラス)



ほぷら組
(5歳児クラス)



入園・進級後の子どもたちの姿をお伝えします

来月は3・4・5歳児クラスの姿をお伝えします。



つくし組（0歳児クラス）

泣いて入室する日もありますが、保育士に抱っこされていると棚の玩具に手を伸ばしてみたり、保育園が少しずつ楽しい所と感じ始めている姿があります。

こまの玩具を見つけた子は毎日両手にこまを握りしめていることで不安な気持ちが和らいでいったようでした。今では“他に何かがあるかな”と這い這いやつかまり立ちをして棚にある玩具に手を伸ばして遊ぶ姿が増えてきました。保育士の抱っこなら眠れる子、テラスに出ると気持ちよさそうに笑顔を見せる子、吊り玩具の鈴の音が好きな子など可愛らしい姿が増えてきました。これからも一人ひとりが心地よく感じる関わり方や遊びを探っていき、保育士と一緒にいることが安心につながっていくように関わっていきます。

たけのこ組（1歳児クラス）

新しい環境にドキドキして泣いている子どもがいたり、周りにいた子どもがそばに行ってヨシヨシと頭をなでてくれています。そんな子どもたちも穴が開いている容器にチェーンを入れるなど好きな遊びに向かったり、保育士の語り掛けに笑ったりする姿も見られるようになってきました。外遊びも気持ちのよい季節になり、園庭では保育士と追いかけてこしたり、タイヤの中に隠れて「ばあー」と顔を出したりして楽しんでいます。大好きなお兄ちゃんやお姉ちゃんを探したり、“あれ何かな？”と気になるものを見つれたりすると行ってみたいという気持ちから行動範囲が広がっています。安心できる場所があるからこそ一歩踏み出すことができ、好奇心も育っていきます。子どもたちの興味や関心のある遊びを十分に楽しめるよう、一緒に共感しながら楽しんでいきたいと思えます。



どんぐり組（2歳児クラス）

新しい部屋にも慣れてきて、子どもたちも好きな遊びを保育士と一緒に楽しみながら過ごしています。中でも好きな遊びはごっこ遊びで、キッチン台を使って料理し、作った料理を保育士にごちそうしてくれます。また、保育士が牛乳パックの台を使って家を作ると中に人形や布団など好きなものを持ち込んでおうちごっこを楽しんでいます。他の子が興味を持って近くにくると初めは「入らないで」と言っていますが、保育士が「〇〇ちゃんもやりたいのかな」と間に入り、やりとりを援助すると相手の子が「いれて」と言う「いいよ」と受け入れてくれています。

これからもっと友達と一緒に色々なことを楽しめるよう、保育士も関わり方を伝えていながら「一緒に嬉しいね」を増やしていきたいと思えます。

